

臨床のきれはし

SHEET26

浅田 英輔

Power dynamics

なんとなく「やさしさ」が求められる時代である。

強い言葉や「指導」はハラスメントと指摘されることもあり、うるさすぎるなあと思うこともなくはないが、これまでハラスメントが見過ごされすぎてきた反動とも考えられる。やさしく言えばいいというものでもないが、怒鳴りつけたり、ましてや暴力は不要である。それに、職場の同僚や部下に対するセクシャルなかわりは不要なはずだ。

ただ、こういうものは一概に「これこれしたらハラスメントです」とは言えないはずである。暴力などの明らかなもの（暴力はハラスメントというより犯罪である）は別として、例えば一度怒鳴ったらハラスメントなのか？ 間違いを指摘したらハラスメントなのか？ どれも「場合による」としか言えないのではないだろうか。どうしても我々は、「〇〇することはハラスメントになります」とか決めたがるし、はっきりさせたがる。

本来は行為があったかなかったよりも、相手の人間性の搾取があるかどうかであるはずだ。そしてそれには関係性が大いに影響する。だから、年頃の男女のいわゆる「アプローチ」は該当しないことが多いはずである。しかし、意図しない相手からの唐突なアプローチは好ましいものにはなりにくい。段々仲良くなって、「なんかいい感じ」になってから先に進めばいいのに、一言ふたこと話したことがあるくらいの人がいきなり告白してしまうのはハラスメントととられてもしょうがない。どうしても

年長男性はパワーを持っていることが多いので、若い女性が適当に同調しているものを好意ととってしまうのだろうが、それにしあってソレとコレと違うのくらいわかれよと思ってしまう。

そういう場合も含めて、「どういふのだとよくて、どういふのがダメ」というのは非常にわかりにくい場合も多いので、ひとまとめにして「ハラスメントだ！」としているのだろう。気心のしれた相手に対して「アホか www」というツツコミをするのは、だいたいの場合 OK だが、ほぼ初対面の新人さんにそんなこといったら怖がられたりして、それはハラスメントだったりするものである。

どれにしても、相手との距離感が適切でないと言えるだろう。人と仲良くなるには、いい感じに踏み込んでみたり、ちょっとだけ言い過ぎてみたりして距離を測っていく。遠すぎると仲良くなれないし、変に近すぎると警戒されるだろう。そこをうまくやるのがコミュニケーション能力というヤツなのだろう。

やたらと人事部門に言いつけたり、いきなり大騒ぎしてしまうタイプは、そもそものコミュニケーションが取れていない可能性が高い。上司に対して関わり方の不満を言うにしても、（モノによるが）いきなり「それはハラスメントです」などとするのは悪手である。大ごとにしてその上司の社会的立場を粉砕したいという目的なのであればそれでよいが、よりよい環境で働きたいということが目的なのであれば、その方法はだいたい間違

いである。同僚に相談したり、直接の上司に相談したりといった段階を踏むのが適切であるが、そういうコミュニケーションが取れない人もいる。

これらの原因のひとつとして、人間関係の経験値が足りてないために、だんだんと距離を縮めることがうまくないということが関係してそう。あるいは、距離を詰める手段をあまり持っていないのかもしれない。周りにいる若い独身コミュ強は、驚くほど気軽に女性を飲みに誘うなど、距離をほどよく詰めるのがとてもうまい。詰めすぎない。でも詰める。重ねてきた経験＋成功体験（＋たくさんの失敗）が違うのだろうと思う。

私の周りでは目立たないが、飲み会に参加したくない人。若い人に多いというが、ある程度年齢がいった人たちの中にもそれなりにいるように思う。「酒を飲まないで仲良くなれないのか？」という考えの人もおかしくはないが、職場の飲み会というのは「お手軽」なのである。職場の飲み会以外で、仲良くなりたい同僚を誘うほうがよっぽど難しいよね？ 仲良くなりたい人、もしくはまだ話したことがないけど普段はあまり用事がない人と仲良くなるのにお手軽なモノが職場の飲み会である。もちろん、気の合う人ばかりではないだろうし、面白いばかりではないだろう。でもまあ、参加してみて、「この上司はこんな顔ももってるのか」とか、「この人意外とめんどくさい人だな」とか、楽しんでいる自分を発見するとか、いつもとちょっと違うものがみえたりする。それが多分、コミュニケーションの経験値になるのではないだろうか。

仲良く話せる人が増えると、職場の飲み会も楽しいし、普段の仕事も前よりは楽しくできる。そうなってくると、「ハラスメントだ！」なんて大騒ぎせずとも、誰かに相談できたり、職場環境をよりよくするための工夫ができたりするのだ。別に、職場の人とすぐ仲良くならなくたっていいんだけど、プライベートの一面を知っていたり、大事にしているもののひとつを知っていたりするほうが、普段のコミュニケーションもスムーズになり、なにかと聞きやすいし、頼まれやすく、仕事がうまくいくのではないだろうか。

少し年をとってから、部下や後輩にハラスメントだと言われずにうまく指導するためにも、ほどよく仲良くなる術を持っていることは大事なことだと思う。仲のいい先輩に「もうちょっとここは丁寧にチェックしなさいね」と言われるほうが、受け入れやすいだろう。仲がいいわけでもなく、前から気に食わない人から注意されると「なんでオメーに言われなきゃならんのだよ」「ハラスメントかよ」となりがちである。

コスパタイパを重視して、「直接役に立たないことはしたくない」という気持ちもわかるが、「ピンポイントで必要なものだけ得る」というのは非常に難しいことである。一見いらぬものや無駄なものをたくさん集めて積み上げて、その上にできあがるのが「ほんとに必要なもの」であることは多い。20人の職場の飲み会でも、ちょっと話してみたいなと思える人が一人か二人いればよい。もしかしたら、あなた自身がそう思われている一人かもしれないし。「今日は話したことない人二人と話してみよう」と思って参加するのもよいかもしれない。参加してみたらつまらないかもしれない。でも、そういう経験を重ねることって案外大事なんじゃないかな。

ハラスメントだーと騒ぐ前に、できることは結構あるんじゃないかと思ったりする。

もちろん、許せないやつは許さなくてよい！！